

教育センターだより

第55号 令和7年9月8日発行

	日野市立教育センター	わかば教室
所在地	〒191-0042 東京都日野市程久保550番地	
電話	042-592-0505	042-592-0863
FAX	042-592-1148	
開館時間	午前8時30分から午後5時15分	午前9時から午後4時
休館日	土曜日、日曜日、祝日、年末年始	

教育センターだより55号の発刊にあたって

日野市立教育センター所長 竹山 弘志



日野市教育委員会は、地域と共につくる基本と先進の教育をめざして、ひのっこ教育(ひらこう世界へ のびようともに つくろう夢を こえよう自分を)を教育目標としています。また、昨年度示した「第4次日野市学校教育基本構想」では、子供たち自らが育んでほしい力として「すべての“いのち”が、よろこびあふれる今と未来をつくっていく力」を掲げました。

これを受けて日野市内の公立小中学校においては、この目標の具現化に向けて独自のプロジェクトを立ち上げて教育活動を展開し、特色ある学校づくりに努めています。子供を真ん中においた教育(学校)をみんなが当事者意識をもってつくっていこうという第4次基本構想の理念に基づき、本教育センターでは「学校を支える教育センター」を目標にして、次の3点の事業を重点的に推進することになりました。

1点目の「研修事業」は、研修担当所員が市内の若手教員(1～3年次)の所属校を訪問して授業観察と面談を行い、若手教員の授業力や教員としての全般的な資質向上に努めています。

2点目の「調査研究事業」は、理科教育推進研究と郷土教育推進研究の2つです。各コーディネーターが中心になり、学校の担当教員や外部関係者等の協力の下に事業を推進し、授業で役立つ教材開発や情報提供等に努めています。

3点目の「相談事業」は、わかば教室運営と学校教育支援の2つがあり、教育支援センターの役割を果たしています。わかば教室では、児童・生徒の社会的自立をめざし、主に長期欠席に関する児童・生徒やその保護者等の相談、及び、通室している児童・生徒の居場所や学び場づくりを行っています。学校教育支援は、教育支援コーディネーターが、市内小中学校の出席状況調査のとりまとめや長期欠席児童の分析、不登校支援パンフレット作成等、不登校総合対策に関わっています。

これらの教育センター事業が学校教育推進の一助となり、子供たちが楽しく学んだり笑顔が増えたりすることにつながれば幸いです。

本教育センター事業の詳細は、Webサイトでも紹介していますので、ぜひご覧ください。

I 研修部

教職員研修係

研修部では、日野市教育委員会教育指導課が計画した研修事業を支援する業務を行っています。

1. 若手教員育成研修(授業観察)

(1) 1 年次教員の授業観察における指導

今年度、1 回目の授業観察は5月から6月にかけて行い、8月下旬から行う。2回目については、7月中旬に各校に授業観察日程の調整を行い、予定を確定できています。

1 年次教員における授業観察の主な観点は、

- 教科指導において、児童・生徒と良好なコミュニケーションがとれているか
- 説明は児童・生徒の理解度を把握しながら行っているか
- 発問のタイミングが適切で、児童・生徒の考えや意見を引き出せているか
- 板書では計画性があり学習の流れを示しているか
- I C T機器の適切で効果的な活用がみられるか

などです。若手教員育成専門員(以下研修部員)は、良かった点や課題を示し、次の授業に向けた改善策を話し合いながら指導に当たっています。

2 回目の授業観察では、1 回目の時に行った指導・助言の実施状況について確認するとともに「特別の教科道徳」の指導方法について指導・助言を行います。また、学級経営等についての相談への対応を行います。

3 回目の授業観察は1 2月中旬から 1 月末にかけて特別活動の授業観察を行い、指導方法について指導・助言を実施する予定です。

(2) 2、3 年次教員の授業観察における指導

2 年次教員における授業観察の主な観点は、

- 授業のねらいが明確で流れにもメリハリがあるか
- 山場を明確にした授業展開になっているか

などで、具体的な実践例を示し指導に努めています。また、興味・関心を高める教材開発や I C T機器を効果的に活用するための助言も行っています。

3 年次教員については、

- 問題解決型授業への取り組みがみられるか
- コミュニケーション能力を高め表現力を育成しようとしているか
- 児童・生徒の興味・関心を引き出す教材教具の開発をしているか

などを主な観点として指導していきます。また、外部との連携や学校の組織的な動きなどについても助言を行っていく予定です。

2 年次および3 年次の若手教員の着実な成長を目の当たりにするとき、本人の日々の努力はもちろんですが、多くの先輩教員による地道で丁寧な指導が行われていることを強く感じます。

近年、年度途中で教職を退いてしまう若手教員が多いことが気になっています。日野市では若手教員が夢をもって研修に努められるよう、私たち研修部員も努力してまいります。



1 年次の若手教員との懇談



1 年次全体研修の様子

2. 若手教員育成研修(校外における研修)

1年次は10回、2年次は3回、3年次は2回、校外において研修(教育センター及び他における研修)が行われます。

右の写真は2年次の1回目の様子です。主な研修内容は「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」と「体罰根絶に向けて(児童・生徒理解と効果的な褒め方叱り方)」です。

3年次の1回目は、「外部機関との連携・折衝の在り方と課題について」と「ゲートキーパー」、それぞれの担当者や現場の先生からの講話があり、演習も行われました。



2年次研修の様子

若手教員の授業観察のためのガイドライン(一部抜粋)

【1】若手教員育成専門員との事前連絡及び授業観察のやり方 (令和7年4月1日 改訂)

(1) 授業観察日の取り決め

若手教員育成専門員と副校長とが連絡を取り、日時を設定する。日時の変更についても副校長を通して行う。

(2) 学習指導案の提出

学習指導案は、管理職や指導教員が、若手教員に対して指導を必ず行うものとする。

学習指導案は、副校長が、授業観察一週間前までに研修担当に提出する。必要に応じて資料等も送付する。

学習指導案は、若手教員育成専門員が必要に応じて書き換えを指導・助言する。

(3) 観察以降の指導

授業観察以降も、若手教員育成専門員は、必要に応じて管理職に相談し、若手教員に対して事後指導をする。

【2】若手教員の授業の指導における重点

(1) 1年次…年3回、授業観察を実施する。

授業における基礎的・基本的事項(学習規律等も含む)の資質・能力の育成を図ることを目的とし、学習計画に沿って授業を実施することができるよう指導・助言する。

(2) 2年次…年1回、授業観察を実施する。

年間指導計画を踏まえ、単元及び一単位時間における児童・生徒に身に付けさせたい力を明確にした授業ができるよう指導・助言する。

(3) 3年次…年1回、授業観察を実施する。

学校の教育課題の解決に向けた授業実践ができるよう指導・助言し、あわせて、外部との連携や学校運営力等の課題解決力の伸長も図る。

*授業観察の教科等の内容

1年次の3回の授業は1回目を教科指導、2回目は道徳授業、3回目は特別活動の授業を原則、実施する。なお、中学校教員、および教科の専科教員は、所属長の判断で、道徳、特別活動の授業の変更は可とする。また、特別支援教育に関わっている教員は自立活動の授業を基本とする。2、3年次教員の指導内容は、所属長の判断でどの分野でも可とする。

研修部員は上記研修会をはじめ、長期休業中に教育センター講堂などで開催される課題別研修会の会場設営等の支援業務を行います。

Ⅱ 調査研究部

教科等教育係・ふるさと教育係

調査研究部では、「理科教育推進」「郷土教育推進」の研究を行っています。

1. 理科教育推進の研究(理科教育推進研究委員会)～教科等教育係

(1) 研究テーマについて

研究テーマ「児童生徒が理科に親しみ、主体的、探求的で深い学びにつながる理科教育」をめざし、児童生徒の科学リテラシーの醸成につなげることを目指します。

(2) 理科研修会への協力

①理科実技研修(幼小教研理科部のもと実施)の支援

- ・ 7月28日(月)日野第四小学校で研修会が行われました。
- ・ 目的：理科の指導における基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、授業に生かせるようにします。

・実技研修内容

- ア.「虫眼鏡、顕微鏡を使って」
- イ.「火の扱い方」
- ウ.「水溶液について」
- エ.「安全管理について」

- ・ 参加者：32名(小学校教諭25名、中学校教諭7名)

・アンケート調査結果

理科実技研修後の理科実験に対する意識調査

ア.研修前後での成果

	苦手	少し苦手	どちらでもない	少し得意	得意
研修前	9	13	6	4	0
研修後	0	5	12	15	0

研修後に成果を感じた方……………75.0%

研修後で変わらない方……………25.0%

イ.参加者が役立った内容

- 1.水溶液の取扱い・廃棄……………34.3%
- 2.器具の使い方、準備、用具……………21.8%
- 3.安全管理・予備実験……………25.0%
- 4.火の取扱い……………18.5%

ウ.今後の研修への希望

- ・薬品関連(取扱い、危険性、薬品簿の扱い、廃棄方法)……………結果、考察の指導法
- ・様々な領域、他分野についても学びたい。

エ.自由記載

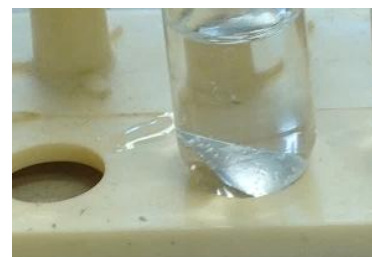
- ・何のための実験・観察なのか意識させ有意義な授業にしたい。
- ・楽しい授業を児童に感じてもらいたい。……………安全管理、準備の重要性を実感した。

②理科実地研修(多摩動物公園)へ参加を予定

- ・研修目的：児童・生徒が動物について深く学べるような学習計画立案ができるようにする。
- ・研修概要：9月5(金)(予備日9月12日(金))に多摩動物公園で動物の生態や普段見られない行動等について説明を受ける理科実地研修が行われる。当日アンケート実施予定。



理科実技研修の様子



水溶液実験



火の取扱い

(3) 諸機関との連携した出前授業への協力

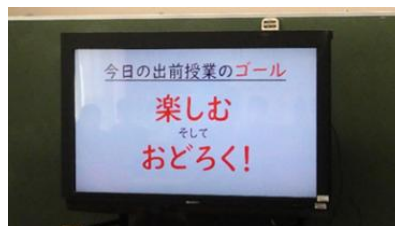
①日本電子株式会社～テーマ：電子顕微鏡を用いたミクロの世界

電子顕微鏡についての学習(座学)と電子顕微鏡を実際に使用し花粉などの拡大観察(実技)及び昆虫サンプルの写生が実施されました。(年度内に小学校4校で実施予定)

(七生緑小学校での実施状況(7月17日に実施済))



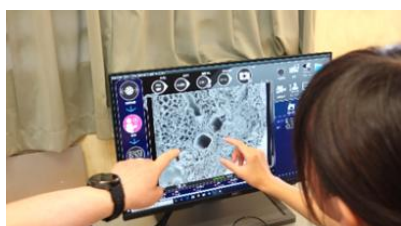
出前授業の様子



授業の目標



使用した電子顕微鏡



観察(実技)風景



昆虫などの標本



標本の写生

②東京工業高等専門学校

出前授業内容と日程は調整中(年度内に小学校2校で実施予定)

(4) 身近な生活科・理科教育について

①身近な植物や天体などについて紹介し、七夕・夏至、時事関連や近隣植物についての解説を配信しました。

②地層情報の収集し、日野市内の情報収集と教育センター資料を確認しました。

A: 黒川清流公園(地層から湧水が見られる)

B: 平山六丁目付近(地層)(現状擁壁工事中)

C: 多摩川多摩大橋下流(生痕化石)

(生物が活動した痕跡が化石化したもの)

D: 多摩川立日橋上流(日野側)(層状の岩に貝殻などが発見されている)

③日野市内の小学校で開催する天体観望会を支援します。

④N I T E (ナイト/独立行政法人製品評価技

術基盤機構)で公開されている家庭用製品に含む化学物質の正しい理解と適切使用や快適な生活など、科学リテラシー向上の一助として「身の回りの製品に含まれる化学物質」を学校へ紹介しました。

紹介項目:化粧品、家庭用塗料、家庭用接着剤、家庭用洗剤、家庭用防除剤、家庭用衣料品

⑤理科実験に関しての着眼点、理科実験の注意点などについて収集します。

⑥教育センターの理科資料(地層、動植物、理科学習の事故例など)を整理します。



2. 郷土教育推進の研究(郷土教育推進研究委員会)～ふるさと教育係

(1) 郷土教育推進研究委員会

研究主題 「郷土への愛着を高め、地域と共に生きようとするひのっ子の育成」

委員会は、小学校教諭17名、ふるさと文化財課学芸員2名、高幡図書館司書1名、中央公民館職員1名で構成しています。A・B・C・Dの4グループに編成し、顧問が1名ずつ加わりました。グループリーダーの「世話人」を中心に研究テーマを設け、グループ研究テーマに基づき2学期の10月28日(火)にA・Bグループ、11月11日(火)にC・Dグループの研究授業を実施します。各グループは地域の教材化と「郷土日野」指導事例データ集の実際の活用法に取り組めます。また、郷土教育指導事例集



の中から郷土教育教材を選んで、各自が社会科だけでなく、国語、理科、道徳などの各教科、総合的な学習の時間の中で活用することに挑戦します。

A・B・C・Dグループの研究テーマを紹介します。

A・郷土の魅力を知り、発信するひのっ子の育成

B・郷土のことを学び、魅力を伝えるひのっ子の育成～日野大好き大作戦～

C・身近な地域を教材に、郷土の良さに気付くひのっ子の育成

D・身近な地域の歴史や文化を知り、郷土を愛するひのっ子の育成

(2) フィールドワーク研修会

～帝人ファーマ東京研究センター・たきび詩碑・しゅん功記念碑・ファナック日野支社・富士電機東京工場・まつり塚のフィールドワーク～

6月24日(火)に実施しました。日野台地の南側の平山台の平山工業団地形成の歴史を旭が丘地域の工場を巡ることで、また、かつて文人が移り住んだ台地の変遷をたきび詩碑、しゅん功記念碑から学ぶフィールドワークを行いました。帝人では、東京研究センター長さんが、帝人と研究センターの紹介、何故日野の平山工業団地を選定し設立されたか、当時の施設周辺の様子と建築家ポリシェック設計の建物の価値について説明されました。その後センター長の案内で、研究センターを見学することが出来ました。たきび詩碑、しゅん功記念碑では小杉顧問から巽聖歌と日野との関わり、区画整理事業として旭が丘が生まれた経緯を地名と関連付けて説明を受けました。



帝人ファーマ東京研究センター

ファナック日野支社では秋田副委員長から、工場自動化の先端技術を開発リードする工場であり、かつては本社であったと説明を受けました。富士電機東京工場では社員さんが富士電機の扱う製品紹介と工場規模について説明されました。工場内の



まつり塚(富士電機東京工場)

まつり塚については、金野学芸員が平山村、豊田村の境界に位置し、集落と台地が日常の生活空間を示す場として、また、疫病などの退散を祈る場であったと説明をしました。平山台地区(旭が丘)の工場開発と日野の工場の現状、まつり塚から台地の歴史の一端を知ることが出来ました。昨年度の半分の2時間でしたが、普段入ることが出来ない研究センターや工場内等の見学を通して、日野を深く知る充実した研修会となりました。

(3) 夏季研修会

7月30日(水)に行い、午前中は金野学芸員から「文人の住む台地から平山工業団地の開発」をテーマに振り返りの講義を受けました。日野市の地形と近世・近代の土地利用の変化をパワーポイントで色分けされた地形図をもとに、沖積地、台地、丘陵地が時代と共に、産業の発展につれて土地利用が変わってきたことを詳しく説明されました。日野台地は明治の殖産興業から始まる養蚕業の隆盛で台地を桑畑に変えるほどでしたが、昭和の大恐慌で打撃を受けた日野町は「日野五社」と呼ばれる大工場を誘致し、桑畑が大工場地へと変遷していきました。戦後は新たに昭和38年から日野台地の南側の平山台地域(旭が丘)を開発し、旭が丘地域は平山工業団地として有数の工場地域となりました。平成になって工場が相次いで転出、閉鎖となり、物づくりの日野の姿が変わりつつあることも学ぶことができました。戦後まもなくの現旭が丘、多摩平、豊田は文人の住まいとして伊藤整、巽聖歌、田中冬二らが居を構え、市内の小中学校の校歌を作詞したり、日野の風景を歌ったりしました。昭和33年には台地に多摩平団地が建てられ、丘陵地帯にも次々と団地が建てられ、住宅地と変わったことを具体的に学びました。小杉顧問からは「旭が丘地域の教材化の視点・日野の特色を生かした教材化の視点と方法」について講義と共に演習を通して学びました。土地利用の変遷を実際に地形図の地図記号をもとに色分けし、昭和15年と昭和40年の地図の違いから気付くこと、考えられることと、授業作りのポイントや、教材作りの方法を学びました。地域住民の願いも反映して団地が再開発されたことや、「歩こう 調べよう ふるさと七生」の冊子の紹介もされました。



小杉顧問による研修



金野学芸員による研修

地域教材の教材化や子供への投げかけの視点について具体的な形で実例を示して分かりやすく説明され、授業研究のヒントをもらいました。午後はグループ研究を行いました。

(4) ふるさと文化財課、図書館、中央公民館との連携

ふるさと文化財課、図書館、中央公民館と協力し合い郷土教育のさらなる充実を図っています。毎月の委員会には、ふるさと文化財課2名、図書館1名、中央公民館1名、合計4名の職員が委員として参加しています。それぞれ専門的な立場での授業につながる具体的な情報は研究を進める上で大変有益なものとなっています。また、研究推進委員会と連携して郷土資料館の企画展を学芸員から、日野の川漁、日野の戦争体験を学ぶ場として提供していただきました。



郷土資料館の企画展で当館の学芸員による解説

(5) わかば教室と一緒に平山陸稲(ひらやまおかぼ)栽培

1911年(明治44年)に平山の篤農家林丈太郎が発見し各地に広まった平山陸稲を伝えるべくわかば教室と連携して取り組んでいます。今年は土作りからわかば教室の子供たち、職員と協力して取り組みました。6月田植え、8月の出穂(しゅっすい)、10月の稲刈り、はざかけ、11月の脱穀・精米、12月の試食までを楽しみにわかば教室の職員、子供たちと共に日々のお世話をしています。今年も脱穀・精米では郷土資料館の学芸員2名から説明を受け、郷土資料館の収蔵農具を実際に使用する予定です。



平山陸稲の田植え

Ⅲ 相談部～「わかば教室」

相談部「わかば教室」では、長期欠席の児童・生徒が、安定して過ごせる居場所のひとつとして、さまざまな活動や体験を通して社会的自立や人との関わり方を学ぶことを目指しています。また、「わかば教室」は不登校全般に関する電話相談の窓口にもなっています。

(1) 目的

- ①安心して過ごせる「学びの場(居場所)」とする
- ②「学校復帰」に向けた支援をする
- ③将来「社会的自立」ができる力を育む

(2) わかば教室への通室について

わかば教室への見学・面談申し込みは保護者からの連絡が原則です。欠席が続く児童・生徒がいた場合、関係諸機関(学校・エール・子ども家庭支援センター等)から保護者へわかば教室を紹介してもらいます。保護者が市のホームページなどで調べて直接連絡してくる場合もあります。保護者・児童・生徒との面談ののち、通室するかどうかを検討してもらいます。面談や通室開始の際は、在籍校との情報共有を行っています。

(3) 不登校児童・生徒にみられる具体例

- ・雑音、大きな音などに弱く、集団、大人数が苦手である。
- ・失敗を気にする傾向が強く、自己肯定感が低い。
- ・学校での様々な活動で、多くのエネルギーを消費して回復する力がない。
- ・友達やその他人間関係のトラブルなどにより自信を失う。

(4) 「わかば教室」の一日の流れ

- ★ 9 : 20 ~ 9 : 30 「朝の会」
- ★ 9 : 30 ~ 12 : 00 【基礎学習】・【わかばタイム】・【eラーニング】・【総合】
- ★ 12 : 00 ~ 12 : 30 昼食(弁当持参です)
- ★ 12 : 30 ~ 13 : 15 昼休み(ゲームやスポーツをして過ごします)
- ★ 13 : 15 ~ 13 : 45 (小)・14 : 25 (中) 【わかデミー】・【SST】・【基礎学習2】
- ★ 13 : 45 ~ 14 : 00 小学生 帰りの会 退室
- ★ 14 : 25 ~ 14 : 35 中学生 帰りの会 退室

【基礎学習】

各自でワークやドリルなどを持参して学習します。

【わかばタイム】

曜日ごとに活動内容を変え、小・中学生合同の授業を行っています。

- ・「音楽」……………音楽鑑賞や楽器の演奏、リズム遊びを通して音楽活動の楽しさを体験します。
- ・「ことば」……………日本の伝統文化や季節にかかわる言葉を学んだり、散策活動を通して俳句や詩の創作をしたり、書写も行います。



・「栽培」…………畑を耕し、野菜の栽培や観察をします。収穫した野菜は持ち帰ったり収穫祭の材料にしたりします。

・「スポーツ」……球技活動などの運動を楽しみながら体力向上を図り、スポーツのルールや協力の大切さを学びます。

・「図工美術」……陶芸や壁画などを制作したり、さまざまな素材で工作したり、イラストを描いたりします。



【eラーニング】

タブレットを使い、ミライシード、タイピング、プログラミング、描画キャンバスなど自分で取り組む課題を選んで進めます。

活動の成果を見せ合ったり、教え合ったりする場面も見られます。



【総合】

行事やイベントの準備や調べ学習、活動のまとめなどをします。

遠足前のグループ毎のコース決めや図書館訪問の際の読書に関するアンケートやクイズ、スポーツ大会の掲示物作りなど、それぞれの行事への興味関心や参加意欲を高める活動をしました。また、わかばで育てている藍を使った叩き染め体験も1学期に行いました。



【わかデミー】（自主性・主体性を育てる）

自分がやりたいことを自分で計画して実践することを目標とし、自らの学びや探究を進める時間となっています。

☆考える→計画する→実行する→振り返る→表現する→やり方を工夫する→共有する

《取り組み例》

手芸・マスコット作り・イラスト・スポーツ・読書・昆虫採集
調べ学習・タイピング・工作・折り紙・歌を歌うなど

【SST（ソーシャル・スキルアップ・トレーニング）】

自己認知スキル、コミュニケーションスキル・社会的行動が身に付くためのトレーニングをしています。ゲームやエンカウンターワークシートを使って自分の考えを伝えたり人の意見を聞いたりして、自分を客観的に見つめる場を作っています。

またコミュニケーションが苦手な児童・生徒のために、少人数でのグループトークも行っています。

【基礎学習2】

学習に興味をもってもらいたいと今年度より始めました。自作聴診器の作成、煮干しの解剖など中学生を対象に実施しています。

（5）これまで実施した行事など（本年度1学期実施した行事）

①春の遠足（4月）

都立多摩動物公園まで徒歩で春の遠足を実施しました。動物ホールで解説員の方の用意してくれた動物グッズで遊んだ後、グループごとに分かれて自分たちの見たい動物に合わせてコースを回りました。



②スポーツ大会(5月)

スポーツを通してルールを守ることや体力向上を目指し協調性を養うことを目的としています。今回はポートボール、鬼ごっこ、ドッジビーを行いました。身体を動かす気持ち良さとともに他の人と関わりながら活動する楽しさも体感できました。



③高幡図書館訪問(6月)

2階の「お話の部屋」で図書館員の方からおすすめの本を紹介してもらった後、1階の開架コーナーを案内してもらいました。その後はそれぞれ自分の好きな本を自由に探しました。



さまざまな本との出会いがあり、本への興味・関心がさらに高まりました。

【特別授業】

★散策授業(ことば)(5月～)

「季節を感じて言葉にすること」を目標に校庭や七生丘陵の散策をしました。花や虫と触れあったり畑の作物の様子を見たりしながら、俳句や川柳・詩の創作活動につなげました。



★総合的な学習(陸稲)(5月～)

明治時代に平山で作られ出された「平山陸稲」を、教育センターの郷土教育研究の先生と一緒に育てています。5月に種まき、6月に田植えをしました。秋まで成長を見守りながら10月の稲刈りを目指します。収穫した米は、冬の収穫祭にも使う予定です。



★夏の収穫祭(調理実習)(7月)

栽培活動の中で育てている野菜を使って調理実習を行い、「カレー」、「じゃがいももち」、「ミニトマトサラダ」を作り、収穫の喜びと感謝の思いを感じる時間となりました。



★毎月の話

スライドを活用して、「干支」や「動物園」、「お米の話」「本の歴史や図書館の活躍」「梅雨」など、季節に関わる伝統文化や科学的事象、時事的な話題、日野の文化や特色についての郷土学習につながる話など、時機に応じた話をしています。

【2、3学期の行事予定】

- ・美術鑑賞教室…………… 9月10日(水) 東京富士美術館見学予定
- ・社会科見学…………… 10月17日(金) 読売新聞府中工場見学予定
- ・中学校音楽鑑賞教室…………… 11月 6日(木) 日野煉瓦ホール
- ・学習発表会、保護者会…………… 11月28日(金) 作品展示・映像での発表等
- ・冬の収穫祭…………… 12月11日(木)
- ・後期スポーツ大会…………… 12月16日(火)
- ・新年を祝う会…………… 1月 9日(金)
- ・卒業進級を祝う会、保護者会…… 3月 6日(金)

(6) カウンセラーによる相談

わかば教室に通室してくる児童・生徒は、集団活動が特に苦手で、さまざまな悩みを抱えています。カウンセラーは一人一人の心情に丁寧に寄り添い、状況に応じて専門的な支援を行っています。

児童・生徒を取り巻く生活環境、家庭環境の重要性も増していることから、保護者自身の相談にも今まで以上に柔軟に対応することを心がけ、児童・生徒・保護者の不安や悩みを少しでも和らげることができるよう体制を整えています。また、オンラインによる相談も実施しています。

(7) 進路指導(支援)について

在籍校の進路指導に基づいて、アドバイスや助言など、質問に寄り添う形の進路指導(支援)を行っています。昨年度は希望生徒の個別面談を行いました。面談後は中学校に連絡しています。また希望生徒との作文指導・面接練習も行っています。

今年度は、中学生向けに夏季休業中に「わかば教室卒業生の話を聞く会」を実施しました。

(8) 保護者に対する相談・対応

年4回実施の保護者会(活動参観・全体会・個別相談)や毎月配布される「わかば通信」を通してわかば教室の活動状況をお知らせしています。また個別相談やカウンセリングを通して、児童・生徒への対応について支援を行います。

(9) 所属校(小学校・中学校)との連携

毎月の通室日数やわかば教室での生活の様子を記録した「通室状況報告書」を毎月各学校にお知らせし、相互の連絡を通して、情報の共有化を図っています。合わせて「わかば教室連絡会」(学校の管理職・教育相談担当教諭・担任の先生に入室していただき、児童・生徒の情報交換を行う)を年に3回実施することで、学校との連絡を密にとり、児童・生徒の対応と指導に生かしています。

(10) オンラインわかばについて

所属校の登校支援教室のみならず、わかば教室にもつながることができない外出困難な児童・生徒への支援策として、オンラインによるわかば教室への参加を行っています。これまでわかば教室につながることができなかった児童・生徒を減少させることが目的で、毎日行っています。また、通室生のオンラインを活用した相談や学習指導も実施しています。定期的にカウンセラーと相談している児童・生徒もいます。

(11) 三校一教室連携について

- ・小中学校三校と連携して、学校間のつながりを深める活動を行います。
- ・各校の紹介ビデオの作成(各学級、学校、わかば教室)により、共通理解を深めます。
- ・多摩モノレール程久保駅の改札外の展示スペースに、わかば教室を含めた各連携校で作成した図工・美術の作品を展示しました。

(7・8月の夏季休業期間)



児童・生徒の図工・美術作品展示
(多摩モノレール程久保駅)

相談部～「教育支援」

市立小中学校の出席状況調査を整理、分析し、学校訪問も行って不登校児童・生徒の状況の把握に努め、関係機関と情報共有を進め、本市における課題についても整理します。不登校に関わる教育相談も行い、児童・生徒、保護者、学校への支援を行います。学校や関係機関と連携して、「社会的自立に向け、学びにアクセスできない子供をゼロにする」（「日野市立学校の不登校総合対策」の目標）に貢献していきます。

（１２）出席状況調査について

毎月の出席状況調査の整理、分析を行い、登校支援の役割を担うわかば教室と学校の情報共有を進め、連携を図っています。さまざまな要因の把握に努め、不登校状況にある児童・生徒への支援策を検討しています。各小中学校の校内委員会等とも連携を図り、不登校支援対策の充実を目指します。

（１３）フリースクール等との連携

日野市教育委員会主催の生活指導主任研修会（市内小中学校２５校参加）に、日野市在住の小中学生が通っているフリースクール等の代表の方に参加いただき、それぞれの活動内容や児童・生徒の様子を紹介してもらうとともに、相互の活動について理解を深め、連携についての協議を行いました。今年度で２回目の開催となりました。情報を相互に共有することで、多様な関係機関と不登校支援の新たな展開を模索しつつ、充実を図っていきます。今後も、関係づくりやさまざまな連携を推進していきます。



(14) 不登校支援パンフレットの改訂（令和7年度版）

7月18日、令和7年度版の『日野市不登校支援パンフレット』学校が苦手な児童・生徒の保護者の方へ「不安や困りごと、ありませんか？」を配信・公開しました。

日野市立小中学校の保護者には電子配信を行い、日野市Webサイト及び日野市立教育センターWebサイトに掲載し、公開しています。

関係機関の協力を得て、最新の情報に更新するとともに、多様な学びの場や居場所、支援の仕組みについて内容を充実しました。教育機関だけではなく、子育て、生活支援等も含んだ支援機関や相談窓口、居場所等を総合的に紹介しています。

わかば教室は日野市における教育支援センターであり、不登校に関する相談窓口を担っています。
（わかば教室・電話042-592-0863）

『日野市不登校支援パンフレット』

学校が苦手な児童・生徒の保護者の方へ
不安や困りごと、ありませんか？

わかば教室の子どもたちの共同作品（令和7年3月）

学校に行きたがらない

- 学校から帰ってくるといつも疲れている
- 学校に行こうとすると頭やお腹が痛くなる
- 家や自分の部屋から出たがらない

子どもへの接し方が分からない

- 子どもに学校に行くよう働きかけてよいか
- 家庭学習を続けるべきか
- 学校に行かない理由を聞いてよいか
- 誰にも相談できない
- 理由を聞いてもよく分からない／答えたがらない

心配な状態が続いている

- ゲームやSNSに没頭して昼夜逆転している
- 学習の進度が遅れ、学校の授業についていけない
- このままでは、将来、進学や就職できないのではないかと心配

一人で悩まないでください

不登校は誰にでも起こり得ることです。お子さんや保護者の方の周りには、行政・民間の様々な支援の輪が広がっています。このパンフレットでは、不登校等で学校が苦手なお子さんの保護者の方の相談先などについてご紹介します。

日野市立教育センター

不登校支援パンフレットは
こちらから



学校での支援や居場所についての情報、様々な悩みに応じた相談窓口等を紹介しています。
【二次元コードからご覧いただけます】

**不登校のご心配
まずはお電話ください**

042-592-0863(わかば教室)

困ったときは相談してください

不登校に関する相談窓口

不登校に関する相談窓口

名称	概要	問合せ先
日野市立教育センター わかば教室 (教育支援センター)	子どもや保護者からの相談 ※常駐しているカウンセラーとの相談もできます。 ※まずは、電話でご連絡ください。 (日野市在住の国公立・私立学校在籍児童・生徒も含む)	TEL:042-592-0863 〒191-0042 日野市程久保550 (平日 9:00~16:30)

日野市立教育センター
相談部 学校生活相談係・学校教育支援係

(15) 相談と学校との連携について

不登校状況にある保護者の方々からの相談を受け、学校やその他の機関と連絡調整を務めています。

(16) 各種研修への協力について

大学や福祉関係機関からの要請を受け、不登校にかかわる講演・協議等を行い、支援者の育成や活動の連携を進めています。